

やんばる世界遺産だより

第7号

平成31年3月発行

沖縄島北部部会

事務局

2月1日、再び世界自然遺産への推薦を行いました！

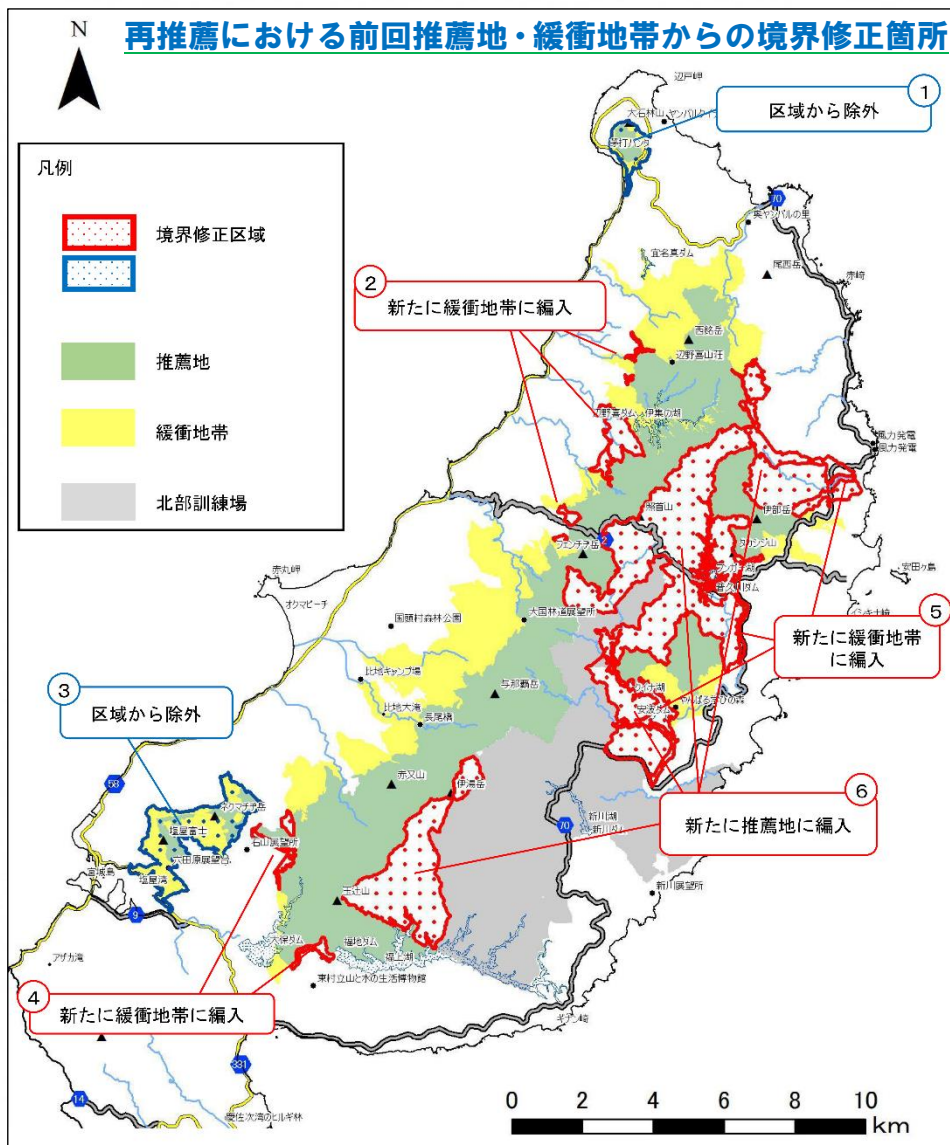
2019年2月1日、ユネスコ世界遺産センターに「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」世界自然遺産候補地の推薦書が改めて提出されました。今回、一旦取り下げた推薦書の内容を国際自然保護連合（IUCN）の勧告を踏まえて修正し、再び推薦したものです。世界自然遺産に登録されるかどうかは、2020年の夏頃に開催予定の世界遺産委員会で審議され、決定される見込みです。



推薦書（英語版）の表紙

推薦書の主な修正点

- ① 推薦地の見直しを行いました。
（沖縄島北部での主な変更点として、北部訓練場の返還地の大部分を推薦地に加えしました。→下図参照）
- ② 世界自然遺産としての価値の説明において、評価基準(x)「生物多様性」の価値に絞って推薦しました。



世界自然遺産登録を見据え、自然を守り活かす取組を進めています

やんばる地域が 2020 年に世界自然遺産に登録される可能性があることを見据え、世界遺産に関する普及啓発活動や生き物を守る取組が進められています。ここでは様々な取組のうち、子どもたちが地域への理解を深める取組や、観光客への周知活動、外来種の駆除、林道パトロールの強化などについて紹介します。

やんばる地域の子もたちと、奄美大島、徳之島、西表島の子もたちとの交流が始まります

やんばる地域の子もたちが、世界自然遺産候補地の他の3島（奄美大島、徳之島、西表島）の子もたちと交流する取組が始まりました。この取組（「奄美と琉球の世界自然遺産次世代継承交流体制構築事業」）により、子どもたちが、住んでいる地域の自然への理解を深め、地域間での交流をとおして次世代へつなげていくことを目的としています。今年度は、「世界自然遺産子ども会議設立総会」を奄美大島、徳之島、やんばる地域（国頭村、大宜味村、東村）及び西表島の各地で開催し、子どもたちが地域の宝を探して発信することの大切さを学びました。



やんばるでの子ども会議の様子



現地（山と水の生活博物館）での子ども会議の様子

特定外来生物ツルヒヨドリの除去作業を行いました

2018年11月23日（金）、大宜味村田嘉里区において、生態系に悪影響を与える特定外来生物であるつる性の植物ツルヒヨドリの除去を行いました。田嘉里区の方々をはじめ、辺土名高校の生徒、やんばる3村の職員、沖縄県職員、環境省職員、民間企業など多くの方々に参加し、ゴミ袋にして200袋以上のツルヒヨドリを除去しました。ツルヒヨドリの駆除作業を行うことで、やんばる地域における分布域拡大を防ぐとともに、生物多様性への外来種の影響について知ることができました。



ツルヒヨドリ駆除作業の様子



参加者の集合写真

小学校の先生たちがやんばるの自然を学校教育に活かす方法を学びました

やんばる地域の小学校の先生たちを対象に、やんばるの自然を学校教育に活かす方法を学ぶ学習会を2018年12月27日に開催しました。まず、午前中に、やんばる地域の自然や文化について自然ガイドから学びました。午後は、（公財）キープ協会の増田直広氏による「インタープリテーションと環境教育」という講演があり、その後、グループワークで地域の特徴を学校教育でどのように活かすか考えました。

参加者の感想として、「身近に教材となる自然がたくさんあった」、「インタープリテーションを初めて知った」、「『環境教育』や『持続可能な社会』が指導要領にあり困惑していたが、今日の話聞き、地域での活動を充実させることが大事だと感じた」などがありました。



グループワークで議論



やんばる3村ルールブック

やんばる3村ルールブックの発行・配布を行っています

やんばる3村を訪れる観光客に守っていただきたい注意事項を示した『やんばる3村ルールブック』をやんばる3村世界自然遺産推進協議会（国頭村／大宜味村／東村）が発行しました。ルールブックには、生き物に関するルールや住民の暮らしとプライバシーへ配慮すべきこと、やんばるの森フィールドマップなどが記載されています。2018年8月に初版を発行し、やんばる3村内の観光施設やウフギー自然館、公民館などに配布しています。大きさは持ちやすいA5版、フルカラーの全12ページとなっています。

QRコード



ルールブック 森林ツーリズム HP

やんばるの森を利用する森林ツーリズムの推進全体構想を策定しました

やんばるの森を利用する観光客や観光事業者が守る利用ルールなどを示した『やんばる森林ツーリズム推進全体構想』が2018年8月に策定されました。この構想に基づき、やんばる地域の森林・林業によって育まれてきた自然や伝統文化等の地域固有の資源を活用し、持続可能な形で観光利用することを目指します。構想では利用ルールが明記されていて、また、ガイド制度やモニタリング、フィールド区分（右図）などを行っています。

フィールド区分	フィールド利用要件	場所（現時点）
保護フィールド	利用しない	◆タナガークムイ ◆与那覇岳（9合目以上）
限定フィールド	認定ガイド（地元）	◆辺戸あすもり ◆慶佐次湾マングローブ域
登録フィールド	認定ガイド登録ガイド（地域外OK）	◆与那覇岳（9合目まで） ◆伊部岳オキナウラジロガシルト ◆ター滝 ◆つつじエコパーク東の沢
オープンフィールド	ガイド登録不要	◆比地大滝 ◆国頭村森林公園

※上記以外のフィールド利用は推奨しない

希少な生き物を守るための林道パトロールを強化しています

やんばる地域の生き物を守るための取組の一つとして、希少種の盗掘や盗採を防止する林道パトロールを実施しています。林道パトロールは国頭村森林組合等地元の方が中心となり、これまでも継続して実施してきましたが、2018年10月、国や県、村、警察官も参加するパトロールを実施し、警察との連携体制を整えました。また、今後、通常のパトロールの範囲と回数を拡充し、さらに警察との連携を深化し、密猟防止のための監視体制を大幅に強化することを予定しています。



パトロールに関する打合せ

世界遺産の再推薦に向け継続的に議論を行ってきました

2018年6月に前回の推薦を取り下げた後、数多くの会議を地域で開催し、再推薦に向けた議論を進めてきました。

地域の関係者が集まる沖縄島北部部会では、世界遺産登録に向けた地域の計画である沖縄島北部行動計画の更新の議論を行いました。この議論も踏まえつつ、世界遺産の再推薦に向けて、今号の中間に記載されている普及啓発活動や生き物を守る活動などが進められています。

再推薦に向け、12月に開催された12市町村の首長が集まる地域連絡会議で包括的管理計画の改定を行い、科学委員会（有識者会議）などの結果を踏まえ修正した推薦書を作成、2月に再提出されました。



H30 第2回地域連絡会議の様子

<再推薦までの検討プロセス>

2018年5月 IUCN 評価報告書の通知

6月 推薦取り下げの決定

6月： H30 第1回沖縄島北部部会
H30 第1回地域連絡会議

9月： H30 第2回沖縄島北部部会
H30 第1回科学委員会

11月： H30 沖縄ワーキンググループ

12月： H30 第2回科学委員会
H30 第3回沖縄島北部部会
H30 第2回地域連絡会議

2019年2月1日 推薦書再提出

2020年夏頃 世界遺産登録可否決定

世界自然遺産推薦地の公式ホームページができました

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産候補地に関する情報をまとめたホームページが開設されています。推薦地である4地域の特徴や、世界遺産に関するパンフレットや映像、推薦地の自然を守るための検討が行われている各種会議の記録などがまとめて載っています。2月1日に提出された推薦書や、沖縄島北部行動計画をはじめ管理計画についてご覧になることができますので、ぜひ下記のURLからアクセスしてみてください。

ホームページのURL：

<http://kyushu.env.go.jp/naha/amami-okinawa/index.html>



世界自然遺産推薦地の公式ホームページ

お問い合わせ先

沖縄県世界自然遺産推進室 TEL:098-866-2243

大宜味村企画観光課 TEL:0980-44-3007

国頭村世界自然遺産推進室 TEL:0980-41-2101

東村企画観光課 TEL:0980-43-2265